

令和2年度
つたえる、感じる、つながる
森林×SDGsプロジェクト

森林環境教育イノベーション調査実施方針
(案)

2020年9月

株式会社 かいほつマネジメント・コンサルティング
一般社団法人 森と未来

内容

- 本調査のポイント
- 森林環境教育の現状。
- 潜在需要。
- 全体調査方針。
- 現行森林環境教育の質と内容の検証。
- 聞き取り対象・アンケート対象。
- 結果の分析と取りまとめ。
- 検討委員の方々をお願いしたいこと。

本調査のポイント

- これから求められる森林環境教育／研修の内容と質について整理する。
- これから求められる発達段階に応じた森林環境教育の有機的なつながりとは何か整理する。
- 今森林環境教育をやろうとしている人、やっていて苦勞している人を実際に支援するための方策を整理する。

森林環境教育の現状

対象者	短期、単発、訪問型体験		長期、継続、定住型体験	
	サービス内容	実施期間	サービス内容	実施期間
幼児			森のようちえん	通年。週4～5日の保育
小学校から高校	学校行事としての森林体験（林間学校など）	1, 2時間～半日程度。林間学校は1～2泊。	山村留学	転校前提で1年間
	学校以外の組織が企画する森林体験イベント	1, 3時間～半日程度。不定期開催が多い。		
	各種団体、企業が企画するサマーキャンプ	1～2泊程度。最大30泊まで		
成人向け	森林での社員研修	1～数泊程度		
	森林での社員CSR活動	1～数泊程度		
	<div style="display: flex; justify-content: space-between; padding: 0 10px;"> 学校を含む各種組織が実施 学校以外の組織が実施 </div>			

潜在需要

対象者	短期、単発、訪問型体験		長期、継続、定住型体験	
	サービス内容	ターゲット顧客 (購入意思決定者)	サービス内容	ターゲット顧客 (購入意思決定者)
幼児	短期対応の森のようちえん	都市からの移住を考える 子育て世代 (顧客タイプ2)	森のようちえん	地方の子育て世代 (顧客タイプ1)、 都市からの移住を考える 子育て世代 (顧客タイプ2)
小学校 から高校	森の学童保育／プレーパーク イベント		森の学童保育／プレーパーク	
	学校行事としての森林体験	学校の森林体験活動準備 担当者 (顧客タイプ3)	自然体験施設のリデュケー ション拠点化	
	学校以外の組織が企画する 森林体験イベント	子供に自然体験をさせた い多忙な子育て世代 (顧客タイプ4)	山村留学	
各種団体、企業が企画する サマーキャンプ				
成人 向け	森林での社員研修	企業経営者／研修担当者 (顧客タイプ5)	サテライトオフィス	都市からの移住を考える 子育て世代 (顧客タイプ2)
	森林での社員CSR活動			

<サービス>

現在供給が限られているが潜在需要が見込まれる分野

<ターゲット顧客の分類>

学校

子育て世代

企業

全体調査方針1

- 地域レベルで思いを持った人を発掘し、寄り添い、人と人とをつなげていくプロセスを検証。
 - 思いを持った人の発掘とリソースの棚卸し
 - 人と人をつなげる人
 - それをサポートする仕組み
- 先進的な事業・試みの発掘。
 - 成功している地域について、プロセスとアクターの役割を検証。
 - まだ地域一丸とはなっていないところでの、キーとなる「別関心層」に対する聞き取り。
 - アーリーアダプターである移住者と地元の方の間の「化学反応」の検証。

全体調査方針2

- 現行森林環境教育サービスの「内容と質」の検証。
 - 顧客・中間業者からの多面的な視点。
 - 競合／代替との比較。
 - 発達段階に応じた森林環境教育を有機的につなげるということは何かを把握。（先進的実践者に対する聞き取り）
 - 文献にもとづく森林環境教育の優位性に関するエビデンスの提示。
- 潜在需要に対応する新しい教育や研修サービスのフィージビリティを検証。
 - 先進的な取り組みを行うアクターから意見聴取。

質の検証のためのボトルネック整理

No	顧客タイプ	想定される利用サービス	サービス購入までに想定される ボトルネック
1	地方の子育て世代	「森のようちえん」「森林空間を生かした学童保育」	サービスが目にとまらない。期待するサービスがない。定員が少ない。費用が高い。
2	テレワークをベースに大都市からの移住を考える子育て世代	「森のようちえん」「森林空間を生かした学童保育」とこれらの短期お試しバージョン	サービスが目にとまらない。期待するサービスがない。短期対応がない。費用が高い。テレワークの環境がない。移住支援サービスの発信力が弱い、もしくは不十分。
3	学校の森林体験活動準備担当者	国立青少年自然教育施設などで提供される「改良版」森林体験活動	サービスが目にとまらない。プログラムがマンネリ化している。プログラムの企画実施を施設側に丸投げできないため担当教員の負担が重い。地域社会と連動した課題解決型など子どもたちに「考えさせる」プログラムがない。
4	お金を払ってでも子どもに自然体験をさせたいが多忙な子育て世代	サマーキャンプなど民間企業が提供する森林体験プログラム	民間企業主催のサマーキャンプという選択肢に気づいていない。利用したいサービスが探せない。期待するサービスがない。選択肢が不足している。費用が高い。
5	時代の変化の中で試行錯誤する企業経営者／研修担当者	森林での研修サービス	森林で研修をするという選択肢に気づいていない。「森林」をキーワードとして検索し、サービスなどを比較して、予約するマッチングサイトがない。利用したいサービスが探せない。選択肢が不足している。費用が高い。

聞き取り対象（全体で30～40人）

調査対象者	主要調査内容
1. 森のようちえん	プログラムの内容、需要の季節変動、潜在需要、保育人材の現況、受け入れ能力、短期利用者受け入れのフィージビリティ。移住者増へのインパクト。移住者と地元の方の間のダイナミズム。
2. 自然学童保育実施団体	プログラムの内容、需要の季節変動、潜在需要、人材の現況、受け入れ能力、森の学童保育を提供するモチベーションファクター、短期利用者受入のフィージビリティ、山村での実施における課題。
3. 青少年森林教育実施施設	プログラムの内容、需要の季節変動、潜在需要、人材の現況、学校向けプログラムの企画実施における丸投げ対応の可否、学校以外や民間業者に向けたプログラム開発やマーケティングの状況、コンサルティングや人材派遣の需要、地場産業などとの連携状況、学童保育等新規サービス実施のフィージビリティ、ワデュケーション拠点化のフィージビリティ。
4. サマーキャンプ実施業者 (自然学校・スポーツクラブ)	プログラムの内容、需要の季節変動、潜在需要、人材の現況、集客方法、集客業者との連携状況、コンサルティングや人材派遣の需要、地場産業などとの連携状況。
5. 森林での研修実施事業者	プログラムの内容、需要の季節変動、潜在需要、人材の現況、集客方法やマーケティング実態、集客業者との連携状況。コンサルティングや人材派遣の需要、地場産業などとの連携状況。

調査対象者	主要調査内容
6. 先進的自治体	<p>移住を促進するための現行の取り組み、 思いを持った人を発掘し、寄り添い、つなげるためのプロセス、 森のようちえんとテレワーク振興を同時に進めることのフィージビリティ と課題、移住者数の増加などの成果、 学校と地域の連携に基づく森林環境教育の実施状況、 森林環境贈与税の森林環境教育への適用状況。</p>
7. 上記以外の地域の主要ステークホルダー	<p>〔一丸となって森林体験教育に取り組んでいる地域だけでなく、そうとも言えない地域で鍵となる「別関心層」アクターについても必要に応じて聞き取りを行う。また子供の発達段階に応じた森林体験教育を有機的に連動させている先進的実践者に対しても聞き取りを行う。〕</p> <p>取り組みが始まったきっかけと発展の過程、 思いを持った人を発掘し、寄り添い、つなげるためのプロセス、 人を惹きつける「場」と「場」が人を惹きつける要因。 各アクターの役割、 子供の発達段階に応じて森林体験教育を有機的につなげるための試みの本質。</p>
8. 旅行代理店	<p>送客の実態、潜在需要、 キャンプや研修実施業者とのプログラム共同開発やカスタマイズの状況、 サービス実施業者に対するコンサルティングの現況。</p>
9. マッチングポータル	<p>送客の実態、潜在需要、 キャンプ実施業者とのプログラム共同開発やカスタマイズの状況、 サービス実施業者に対するコンサルティングの現況。</p>

調査対象者	主要調査内容
10. 森林を利用して教育を行っている高等学校・中学校	サービスを認知したきっかけ。学習指導要領に照らしたサービスを利用した狙い。サービスを利用してみた感想。代替活動と比較したプログラム企画と実施に係る手間の感度。森林教育における地域との連携状況。施設側が行う丸投げ対応の重要度。サービス向上のために必要な点。価格感度。

対顧客アンケート調査

調査対象者	調査内容
森のようちえん利用保護者 n = 50	サービスを認知したきっかけ、サービスを利用してみた感想、サービス向上のために必要な点、価格感度、移住との親和性。
サマーキャンプ利用保護者 n = 100	サービスを認知したきっかけ、サービスを利用してみた感想、サービス向上のために必要な点、今後求められるプログラム、価格感度。
森林研修利用 経営者／利用 企業の担当者 n = 10	サービスを認知したきっかけ、サービスを利用してみた感想、サービス向上のために必要な点、今後求められるプログラム、価格感度。

注：今後調査対象者とのやり取りの中で、実情に合わせて調査数を変更する可能性がある。

結果の分析と取りまとめ

- 需要が増大／縮小している各種森林環境教育サービスの要因分析。
 - 子どもの発達段階に応じた課題の抽出。
 - 目指す姿に向けた地域内でのつながり等のステップに応じた課題の抽出。
- 思いを持った人を発掘し、寄り添い、つなげていく、地域に焦点を当てたプロセスの分析。
- 提言：
 - これから求められる森林環境教育サービスとは一質の向上に向けて。
 - 「寄り添うためにできることリスト」。
 - 「してはいけないことリスト」。
 - 「寄り添う人」を支えるための仕組み/体制。
 - 森林環境教育を有機的につなげるためにできること。
 - 持続的な取組としていくためにすべきこと。

検討委員の皆さまにお願いしたい点

- 先進的な事例と実践者のご紹介。インタビューのお取り次ぎ。
- その他優良事例に関する既存文献のご紹介。
- 反面教師となる事例や教訓のご紹介。
- 調査票(案)に対するコメント。

A person is sitting in a large pile of dry, brown leaves. The person is wearing a dark jacket and a dark hat. The background is a dense layer of leaves. On the right side, a tree trunk is visible, extending from the top to the bottom of the frame. The overall scene is outdoors, likely in a park or a wooded area during autumn.

ご清聴ありがとうございました